DAOA 遺伝子では検索した 6 遺伝子多型のうち m22 (rs778293)で遺伝子型とアレル頻度において覚せい剤精神病と健常者群の間で有意差を認め（表 4，遺伝子型：p=0.00016、アレル：P=0.0015），マイナーアレルの G が覚せい剤精神病群では健常者群に比べて有意に多かった。オッズ比はアレル G で 1.6 倍，遺伝子型 GG で 5.7 倍であった。各臨床表現型では有意な相関はなかった。DAOA 遺伝子 6 多型間の連鎖不平衡解析から，3'側の m12 と m15，5'側の m23 と m24 が連鎖不平衡関係にあることが分かったので，この 2 部位でハプロタイプ解析をした。その結果，両部位で覚せい剤精神病と有意な相関がみられた（m12-m15, global permutation p =0.0003,および m23-m24, p= 0.010）。アレル頻度では m12-m15 ハプロタイプで G-A が有意に患者で少なく，防禦ハプロタイプ（p=0.00024），m23-m24 ハプロタイプでは T-T が有意に患者で多くリスクハプロタイプ(p=0.00085)であることがわかった。

表 2. DTNBP1 遺伝子の P1635 多型と覚せい剤精神病臨床表現型

P1635	N	AA	AG	GG		A	G	
Latency to Onset of Psychosis, <3Y	99	89(89.9)	10(10.1)	0(0.0)		188(94.9)	10(5.1)	
Latency to Onset of Psychosis, ≥3Y	81	71(87.7)	10(12.3)	0(0.0)	0.63	152(93.8)	10(6.2)	0.64
Transient MAP Psychosis	107	100(93.5)	7(6.5)	0(0.0)		207(96.7)	7(3.3)	
Prolonged MAP Psychosis	82	68(82.9)	14(17.1)	0(0.0)	0.022	150(91.5)	14(8.5)	0.027
Spontaneous Relapse, No	111	98(88.3)	13(11.7)	0(0.0)		209(94.1)	13(5.9)	
Spontaneous Relapse; Yes	82	73(89.0)	9(11.0)	0(0.0)	0.87	155(94.5)	9(5.5)	0.88

表 3. DTNBP1 遺伝子のハプロタイプと覚せい剤精神病

Haplotype P1655-P1635-SNPA	Controls Frequency	MAP Psychosis Frequency	permutation p
C-A-A	0.7101	0.6046	0.0013
G-A-A	0.2741	0.3315	0.076
C-G-T	0.0022	0.0318	0.0012
C-G-A	0.0023	0.0178	0.11
C-A-T	0.0073	0.0055	0.83
G-G-A	0.0000	0.0089	0.15
G-A-T	0.0039	0	0.18

SRR 遺伝子では，3 多型はいずれも覚せい剤精神病と有意な相関はなかった。3 多型からなるハプロタイプ解析でも，有意な相関はなかった。臨床表現型での検討では、SNP3 (rs2224770)が精神病症状の自然再燃の有無に弱いながら有意に相関（p=0.045），SNP5 (rs408067)の遺伝子型が精神病予後に相関（CC+GC vs GG; p=0.039），多剤乱用の有無で遺伝子型（GG+GC vs CC, p=0.029）およびアレル（p=0.038）が有意な相関を示した。しかし，これらは多重比較補正後では有意ではなかった。

表 4．DAOA 遺伝子と覚せい剤精神病の相関解析

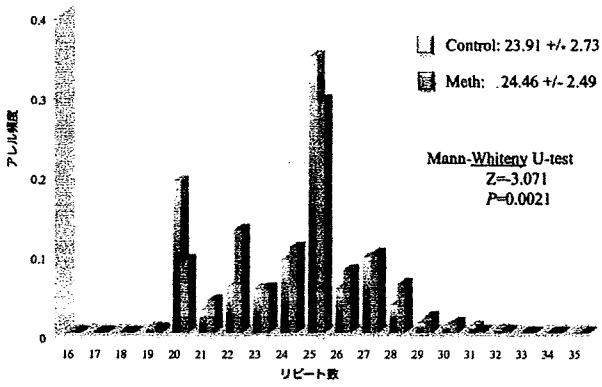
Loci	N	Genotype (%)			p	Allele (%)		p
m12 (rs3916965)		A/A	A/G	G/G		A	G	
controls	278	144(51.8)	115(41.4)	19(6.8)		403(72.5)	153(27.5)	
patients	209	117(56.0)	75(35.9)	17(8.1)	0.45	309(73.9)	109(26.1)	0.62
m15 (rs2391191)		A/A	A/G	G/G		A	G	
controls	279	143(51.3)	115(41.2)	21(7.5)		401(71.9)	157(28.1)	
patients	205	111(54.1)	74(36.1)	20(9.8)	0.43	296(72.2)	114(27.8)	0.91
m18 (rs947267)		A/A	A/C	C/C		A	C	
controls	288	122(42.4)	133(46.2)	33(11.4)		377(65.5)	199(34.5)	
patients	206	99(48.1)	85(41.2)	22(10.7)	0.45	283(68.7)	129(31.3)	0.29
m22 (rs778293)		A/A	A/G	G/G		A	G	
controls	287	179(62.4)	102(35.5)	6(2.1)		460(80.1)	114(19.9)	
patients	203	109(53.7)	72(35.5)	22(10.8)	0.00016 OR=5.7	290(71.4)	116(28.6)	0.0015 OR=1.6
m23 (rs3918342)		T/T	T/C	C/C		T	C	
controls	291	72(24.7)	165(56.7)	54(18.6)		309(53.1)	273(46.9)	
patients	208	62(29.8)	98(47.1)	48(23.1)	0.11	222(53.4)	194(46.6)	0.93
m24 (rs1421292)		A/A	A/T	T/T		A	T	
controls	282	76(27.0)	145(51.4)	61(21.6)		297(52.7)	267(47.3)	
patients	205	51(24.9)	90(43.9)	64(31.2)	0.054	192(46.8)	218(53.2)	0.072

GRIN1 遺伝子では検索した 3 遺伝子は覚せい剤精神病と有意な相関は認めなかった。臨床表現型との検討で rs2301364 で精神病の自然再燃（いわゆるフラッシュバック）において遺伝子型 (p=0.042),アレル頻度（p =0.032）で有意な相関を認め、マイナーアレルである T アレル、および TT 遺伝子型を有する個人では自然再燃が生じにくくなり、オッズ比はそれぞれ 0.62、0.23 であった。GRIN1 の 3 遺伝子多型のハプロタイプ解析を行ったが、2 遺伝子間、3 遺伝子間でも統合失調症発症脆弱性とは相関は示さなかった。GRIN2B の rs1019385、rs1805502 では前者の遺伝子型分布が覚せい剤精神病患者と健常コントロールで p=0.049 と弱い有意差を認めた。マイナーアレル G のホモ接合 GG 遺伝子型はオッズ比 1.57 と弱い危険因子であった。しかし、アレル頻度では差はなかった。臨床表現型では有意な相関はなかった。

GRIN2A の(GT)n 繰り返し多型では 16 リピートから 35 リピートまでみられ、25 リピートが最も多く、これまでの日本人での報告[10,12]とほぼ一致した。各リピートアレル頻度の

分布は覚せい剤精神病は健常コントロールと有意な差がみられた（p＝0.002, 図 1）。平均リピート数は健常コントロールが 23.9+/-2.73 で、覚せい剤精神病では 24.46+/-2.49 と患者群でリピート数が有意に多かった。この(GT)n 繰り返し多型と臨床表現型では特に有意な相関を示したものはなかった。

図 1. 覚せい剤精神病と GRIN2A の(GT)n リピート多型のアレル分布



D. 考察

P1635 の G アレルは覚せい剤精神病の危険因子であることが示され、日本人とアイルランド人の統合失調症における研究結果と一致していた [7, 13]。又、同アレルは精神症状の遷延、治療後の予後不良因子となることが発見された。P1655－P1635－SNPA の 3 つのマーカーによるハプロタイプ解析で、C-A-A ハプロタイプは患者群に比べて健常者群で有意に多く、保護的因子であることが示された。統合失調症や精神病性双極性障害においても同一の結果が示され [7, 8]、C-A-A ハプロタイプは、妄想や幻覚などの精神症状を合併する内因性精神病や薬物乱用に対する発症脆弱性に対する防御因子であることが示唆された。

Dysbindin の生理機能や病態生理との関係については知見が集まりつつある。Talbot ら [14]は、統合失調症患者の海馬で dysbindin が減少しており、小胞体グルタミン酸トランスポーター発現レベルと逆の相関していることを示した。培養細胞を用いた in vitro の研究では、dysbindin の過剰発現により、シナプス小胞の蛋白（SNAP25、Synapsin□）の増加と共にグルタミン酸放出が増加し、反対に dysbindin の低下によりグルタミン酸放出が減少することが示されている [15]。統合失調症患者の脳において、dysbindin の発現低下が脳内のグルタミン酸システムの機能低下を来たす可能性があり、これは統合失調症の病因仮説として有力な候補である。統合失調症と覚せい剤精神病との臨床的類似性に基づくと、両者の共通の分子学的機構はドパミンシステムだけでなく、グルタミン酸システムが関与していることが推定された。覚せい剤精神病の動物モデルによる実験で、NMDA 受容体とグルタミン酸システムが行動感作における主要な役割を果たすことが分かっている [16]。今回の結果から DTNBP1 遺伝子変異がグルタミン酸系神経伝達を変化させ、覚せい剤精神病へ関与することを示唆している。

DAOA 遺伝子の m22 および m12-m15 ハプロタイプ，m23-m24 ハプロタイプが覚せい剤精神病と強い相関を示したことから，DAOA の遺伝子変異により個体の覚せい剤精神病への罹患脆弱性が影響を受けると考えられる。DAOA は D 体アミノ酸を酸化代謝する D-amino acid oxidase を活性化するため，NMDA 受容体の co-agonist の一つである D-serine の代謝変化により，NMDA 受容体を介したグルタミン酸神経伝達が変化することで覚せい剤精神病の発症脆弱性を増すと考えられる。ただし，これらの多型の DAOA 分子の活性変化への影響は現在のところ分かっていないし，また，多型の位置も，m15 はエクソン 2 上に位置するが，m12 は DAOA 遺伝子の上流であり，m22, m23, m24 は遺伝子の下流にあり，いずれも遺伝子上には位置していないので，今回の多型により DAOA の機能変化が生じているという証明を待つ必要がある。一方，DAOA 遺伝子の統合失調症との相関研究は 2002 年の Chumakov ら [17] のものを皮切りに現在まで約 20 の研究が報告されているが，その結果は解析部位，またその結果など一致しない点が多く結論には至っていないのが現状である。そこで，いくつかメタ解析がおこなわれている。Ma ら [18]は 5 つの研究を対象に m12, m22, m23 で約 2000 例ずつのメタ解析ですべて有意差がないこと，明らかな異種性があること，アジア人に限定すると異種性

は減り，m22 でアレル G がアジア人では有意なリスクであったと報告した。また，Shi ら[19]は DAOA 遺伝子の統合失調症での 16 研究のメタ解析をアジア人とヨーロッパ人に分けて解析をし，その結果，アジア人では m18 の A アレル，m22 の G アレルが危険アレル，ヨーロッパ人では m24 の T アレルが弱い危険アレルであるとした。今回の解析では，日本人の覚せい剤精神病でも m22 の G アレルが危険アレルであり，このことは，DTNBP1 遺伝子と同様に DAOA 遺伝子多型は統合失調症という疾患自体ではなく，精神病症状を合併しやすさに関わっている可能性が推定される。

NMDA 受容体サブタイプ遺伝子解析では、GRIN2A の(GT)n 繰り返し多型が覚せい剤精神病と強い相関を示した。平均リピート数は覚せい剤精神病患者が健常コントロール群と比べて有意に多いことが明らかになった。（GT）n リピート多型は Itokawa ら[10]が日本人統合失調症で相関することを最初に報告し、注目されており、その後の追跡解析でも相関が確認されている[12]。Itokawa ら[10]は GRIN2A の全域のエクソンとその周辺部の多型サーチを行い、（GT）n リピート多型を含め 5 つの多型しか存在しないこと、そして、統合失調症とは（GT）n リピート多型のみが相関したことを見いだした。更に、この多型は Luciferase assay で転写活性に影響することを見いだしており、リピート数が 0 回、12 回、25 回、42 回と多くなるほど、転写活性が低下することを見いだしている。また、死後脳での MK-801 結合活性も低下することを明らかにしている。彼らの統合失調症での検討では、（GT）n リピート数が有意に健常者より多いと報告しており、今回の覚せい剤精神病と同じ方向である。従って、（GT）n リピート数が多い個体では、NMDA 受容体数が生来的に少なく、NMDA 受容体を介した神経伝達が不良で、それが統合失調症や覚せい剤誘発性精神病の危険因子になるということが推定される。

これまで、グルタミン酸神経伝達や NMDA 受容体関連分子をコードする遺伝子群の解析で DTNBP1, DAOA, SRR, GRIN2A といった一連の遺伝子が覚せい剤精神病に相関することがわかった。この他に、われわれは NMDA 受容体の co-agonist である glycine や D-serine の濃度を規定する glycine transporter type I も覚せい剤精神病と相関することを報告している[20]。また、これらの結果の一部は統合失調症や精神病症状を伴う双極性障害[7, 8, 10, 18, 19]と共通している。遺伝子型と生理機能との関連性が確認されているのは GRIN2A の（GT）n リピート多型のみであるが、これまでの知見を総合すると、DTNBP1 多型によりグルタミン酸放出が低下することや、DAOA, GLYT-1, SRR 多型により NMDA 受容体の co-agonist である glycine や D-serine が低下すること、もしくは NMDA 受容体の GRIN2A サブタイプの発現低下などのどこかの異常により、最終的に NMDA 受容体活性化が減弱し、この系のシグナル伝達が低下することが、内因性、薬剤性を問わず精神病の合併危険性を増加させ、また、精神病の遷延やフラッシュバックの合併など予後の悪さにも影響すると考えられた。

E. 結論

グルタミン酸神経伝達に関わる複数の分子をコードする遺伝子、DTNBP1, DAOA, SRR, GRIN1, GRIN2A, GRIN2B を case-control 相関解析で検討し、特に DTNBP1, DAOA, GRIN2A が覚せい剤精神病の発症脆弱性と強く相関することが明らかとなった。また、危険アレルやハプロタイプは統合失調症や妄想を伴う双極性障害でのそれと同一のものが多いことから、生来的にグルタミン酸神経伝達、特に NMDA 受容体を介した伝達不全がある個人では覚せい剤乱用による精神病合併や内因性精神病に脆弱性を示すと考えられた。従って、この系を改善させる薬剤があらたな治療法になると推定された。

[参考文献]

1. 氏家　寛 (2008): ゲノム情報から物質依存脆弱性を予測する. 日本神経精神薬理学雑誌、28, 11-18.
2. 氏家　寛，岡久祐子 (2009): 覚せい剤依存症・精神病ゲノム因子の最新知見 最新

精神医学, 14; 127-132.
3. Ujike H, Harano M, Inada T, Yamada M, Komiyama T, Sekine Y, et al. (2003): Nine- or fewer repeat alleles in VNTR polymorphism of the dopamine transporter gene is a strong risk factor for prolonged methamphetamine psychosis. Pharmacogenomics J. 3(4):242-247.
4. Ujike H, Katsu T, Okahisa Y, Takaki M, Kodama M, Inada T, et al. (2009): Genetic variants of D2 but not D3 or D4 dopamine receptor gene are associated with rapid onset and poor prognosis of methamphetamine psychosis. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 15;33(4):625-9.
5. Suzuki A, Nakamura K, Sekine Y, Minabe Y, Takei N, Suzuki K, et al. (2006): An association study between catechol-O-methyl transferase gene polymorphism and methamphetamine psychotic disorder. Psychiatr Genet. 16(4):133-8.
6. Nakamura K, Sekine Y, Takei N, Iwata Y, Suzuki K, Anitha A, et al. (2009): An association study of monoamine oxidase A (MAOA) gene polymorphism in methamphetamine psychosis. Neurosci Lett. 455(2):120-3.
7. Williams NM, Preece A, Morris DW, Spurlock G, Bray NJ, Stephens M, et al (2004): Identification in 2 independent samples of a novel schizophrenia risk haplotype of the dystrobrevin binding protein gene (DTNBP1). *Arch Gen Psychiatry* 61:336-344.
8. Raybould R, Green EK, MacGregor S, Gordon-Smith K, Heron J, Hyde S, et al (2005): Bipolar disorder and polymorphisms in the dysbindin gene (DTNBP1). *Biol Psychiatry* 57:696-701.
9. Zhao X, Li H, Shi Y, Tang R, Chen W, Liu J, et al. (2006): Significant association between the genetic variations in the 5' end of the N-methyl-D-aspartate receptor subunit gene GRIN1 and schizophrenia. *Biol Psychiatry* 59:747-53.
10. Itokawa M, Yamada K, Yoshitsugu K, Toyota T, Suga T, Ohba H, et al (2003): A microsatellite repeat in the promoter of the N-methyl-D-aspartate receptor 2A subunit (GRIN2A) gene suppresses transcriptional activity and correlates with chronic outcome in schizophrenia. *Pharmacogenetics* 13:271-8.
11. 7. Martucci L, Wong AH, Trakalo J, Cate-Carter T, Wong GW, Macciardi FM, et al (2003): N-methyl-D-aspartate receptor NR1 subunit gene (GRIN1) in schizophrenia: TDT and case-control analyses. *Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet* 119B:24-7.
12. Iwayama-Shigeno Y, Yamada K, Itokawa M, Toyota T, Meerabux JM, Minabe Y, et al. (2005): Extended analyses support the association of a functional (GT)n polymorphism in the GRIN2A promoter with Japanese schizophrenia. *Neurosci Lett* 378:102-5.
13. Straub RE, Jiang Y, MacLean CJ, Ma Y, Webb BT, Myakishev MV, et al (2002): Genetic variation in the 6p22.3 gene DTNBP1, the human ortholog of the mouse dysbindin gene, is associated with schizophrenia. *Am J Hum Genet* 71:337-348.
14. Talbot K, Eidem WL, Tinsley CL, Benson MA, Thompson EW, Smith RJ, et al (2004): Dysbindin-1 is reduced in intrinsic, glutamatergic terminals of the hippocampal formation in schizophrenia. *J Clin Invest* 113:1353-1363.
15. Numakawa T, Yagasaki Y, Ishimoto T, Okada T, Suzuki T, Iwata N, et al (2004): Evidence of novel neuronal functions of dysbindin, a susceptibility gene for schizophrenia. *Hum Mol Genet* 13:2699-2708.
16. Ujike H (2002): Stimulant-induced psychosis and schizophrenia: the role of

sensitization. *Curr Psychiatry Rep* 4:177-184.
17. Chumakov I, Blumenfeld M, Guerassimenko O, Cavarec L, Palicio M, Abderrahim H, et al (2002). Genetic and physiological data implicating the new human gene G72 and the gene for D-amino acid oxidase in schizophrenia. Proc Natl Acad Sci U S A 99:13675-80.
18. Ma J, Qin W, Wang XY, Guo TW, Bian L, Duan SW, et al (2006). Further evidence for the association between G72/G30 genes and schizophrenia in two ethnically distinct populations. Mol Psychiatry 11:479-87.
19. Shi J, Badner JA, Gershon ES, Liu C (2008). Allelic association of G72/G30 with schizophrenia and bipolar disorder: A comprehensive meta-analysis. Schizophrenia Res 98: 89-97.
20. Morita Y, Ujike H, Tanaka Y, Kishimoto M, Okahisa Y, Kotaka T, et a. (2008): The glycine transporter 1 gene (GLYT1) is associated with methamphetamine-use disorder. Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet 147 :54-8.

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Matsuzawa D, Hashimoto K, Miyatake R, Shirayama Y, Shimizu E, Maeda K, Suzuki Y, Mashimo Y, Sekine Y, Inada T, Ozaki N, Iwata N, Harano M, Komiyama T, Yamada M, Sora I, Ujike H, Hata A, Sawa A, Iyo M. Identification of functional polymorphisms in the promoter region of the human PICK1 gene and their association with methamphetamine psychosis. Am J Psychiatry. 164(7): 1105-1114, 2007
2. Hashimoto T, Hashimoto K, Miyatake R, Matsuzawa D, Sekine Y, Inada T, Ozaki N, Iwata N, Harano M, Komiyama T, Yamada M, Sora I, Ujike H, Iyo M. Association study between polymorphisms in glutathione-related genes and methamphetamine use disorder in a Japanese population. Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet. 147B:1040-6. 2008
3. Otani K, Ujike H, Sakai A, Okahisa Y, Kotaka T, Inada T, Harano M, Komiyama T, Hori T, Yamada M, Sekine Y, Iwata N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Kuroda S. Reduced CYP2D6 activity is a negative risk factor for methamphetamine dependence. Neurosci Lett. 434(1):88-92. 2008
4. Uhl GR, Drgon T, Liu QR, Johnson C, Walther D, Komiyama T, Harano M, Sekine Y, Inada T, Ozaki N, Iyo M, Iwata N, Yamada M, Sora I, Chen CK, Liu HC, Ujike H, Lin SK. Genome-wide association for methamphetamine dependence: convergent results from 2 samples. Arch Gen Psychiatry. 65(3):345-55. 2008
5. Kishimoto M, Ujike H, Okahisa Y, Kotaka T, Takaki M, Kodama M, Inada T, Yamada M, Uchimura N, Iwata N, Sora I, Iyo M, Ozaki N, Kuroda S. The Frizzled 3 gene is associated with methamphetamine psychosis in the Japanese population. Behav Brain Funct. ;4:37. 2008
6. Kishimoto M, Ujike H, Motohashi Y, Tanaka Y, Okahisa Y, Kotaka T, Harano M, Inada T, Yamada M, Komiyama T, Hori T, Sekine Y, Iwata N, Sora I, Iyo M, Ozaki N, Kuroda S. The dysbindin gene (DTNBP1) is associated with methamphetamine psychosis. Biol Psychiatry. 63(2):191-6. 2008
7. Morita Y, Ujike H, Tanaka Y, Kishimoto M, Okahisa Y, Kotaka T, Harano M, Inada T, Komiyama T, Hori T, Yamada M, Sekine Y, Iwata N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Kuroda S. The glycine transporter 1 gene (GLYT1) is associated with methamphetamine-use disorder. Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet. 147(1):54-8. 2008
8. Kotaka T, Ujike H, Morita Y, Kishimoto M,

Okahisa Y, Inada T, Harano M, Komiyama T, Hori T, Yamada M, Sekine Y, Iwata N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Kuroda S. Association study between casein kinase 1 epsilon gene and methamphetamine dependence. Ann N Y Acad Sci. 1139:43-8. 2008

9. 氏家 寛 ゲノム情報から物質依存脆弱性を予測する 日本神経精神薬理学雑誌、28, 11-18 2008
10. 氏家 寛, 岡久祐子. 覚せい剤依存症・精神病ゲノム因子の最新知見 最新精神医学, 14; 127-132, 2009
11. Ujike H, Katsu T, Okahisa Y, Takaki M, Kodama M, Inada T, Uchimura N, Yamada M, Iwata N, Sora I, Iyo M, Ozaki N, Kuroda S. Genetic variants of D2 but not D3 or D4 dopamine receptor gene are associated with rapid onset and poor prognosis of methamphetamine psychosis. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 33(4):625-9, 2009.
12. Nakamura K, Sekine Y, Takei N, Iwata Y, Suzuki K, Anitha A, Inada T, Harano M, Komiyama T, Yamada M, Iwata N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Ujike H, Mori N. An association study of monoamine oxidase A (MAOA) gene polymorphism in methamphetamine psychosis. Neurosci Lett. 455(2):120-3, 2009.
13. Kishi T, Ikeda M, Kitajima T, Yamanouchi Y, Kinoshita Y, Kawashima K, Okochi T, Tsunoka T, Okumura T, Inada T, Ujike H, Yamada M, Uchimura N, Sora I, Iyo M, Ozaki N, Iwata N. A functional polymorphism in estrogen receptor alpha gene is associated with Japanese methamphetamine induced psychosis. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 33(5):895-8, 2009.
14. Okochi T, Kishi T, Ikeda M, Kitajima T, Kinoshita Y, Kawashima K, Okumura T, Tsunoka T, Inada T, Yamada M, Uchimura N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Ujike H, Iwata N. Genetic association analysis of NRG1 with methamphetamine-induced psychosis in a Japanese population. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 33(5):903-5, 2009.
15. Kotaka T, Ujike H, Okahisa Y, Takaki M, Nakata K, Kodama M, Inada T, Yamada M, Uchimura N, Iwata N, Sora I, Iyo M, Ozaki N, Kuroda S. G72 gene is associated with susceptibility to methamphetamine psychosis. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 33(6):1046-9, 2009.
16. Okahisa Y, Ujike H, Kotaka T, Morita Y, Kodama M, Inada T, Yamada M, Iwata N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Kuroda S. Association between neuropeptide Y gene and its receptor Y1 gene and methamphetamine dependence. Psychiatry Clin Neurosci. 63(3):417-22, 2009.
17. Kanahara N, Miyatake R, Sekine Y, Inada T, Ozaki N, Iwata N, Harano M, Komiyama T, Yamada M, Sora I, Ujike H, Iyo M, Hashimoto K. Association study between the PIK4CA gene and methamphetamine use disorder in a Japanese population. Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet. 150B(2):233-8, 2009.

2. 学会発表

1. 氏家 寛 シンポジウム：薬物依存- 臨床応用への可能性：物質依存における発症脆弱性と臨床表現型の個人差はゲノム情報でどこまで予測できるか？第 29 回日本生物学的精神医学会、第 37 回日本神経精神薬理学会合同年会、札幌、7.11-7.13、2007
2. 岡久 祐子、氏家 寛、岸本 真希子、小高 辰也、森尾 亜希子、稲田 俊也、原野 睦生、小宮山 徳太郎、堀 達、山田 光彦、関根 吉統、岩田 仲生、伊豫 雅臣 、曽良 一郎、尾崎 紀夫、黒田 重利 ニューロペプチドY遺伝子多型と覚せい剤依存症/精神病の関連研究. 第 29 回日本生物学的精神医学会、第 37 回日本神経精神薬理学会合同年会、札幌、7.11-7.13、2007
3. 岸本 真希子、氏家 寛、岡久 祐子、小高 辰也、森尾 亜希子、稲田 俊也、原野 睦生、小宮山 徳太郎、堀 達、山田 光彦、関根 吉統、岩田 仲生、伊豫 雅臣 、曽良 一郎、尾崎 紀夫、黒田 重利 Frizzled 3(FZD3)遺伝子は覚せい剤精神病に関連する.第 29 回日

本生物学的精神医学会、第37回日本神経精神薬理学会合同年会、札幌、7.11-7.13、2007

4. 小高辰也、氏家　寛、岸本真希子、岡久祐子、森田幸孝、稲田俊也、原野睦生、小宮山徳太郎、堀達、山田光彦、関根吉統、岩田仲生、伊豫雅臣、曽良一郎、尾崎紀夫、黒田重利 Casein Kinase 1 Epsilon 遺伝子と覚醒剤依存症との関連研究. 第29回日本生物学的精神医学会、第37回日本神経精神薬理学会合同年会、札幌、7.11-7.13、2007
5. 氏家　寛、岸本真希子、本橋靖子、岡久祐子、小高辰也、原野陸生、稲田俊也、山田光彦、小宮山徳太郎、堀　達、関根吉統、岩田仲生、曽良一郎、伊豫雅臣、尾崎紀夫、黒田重利 覚せい剤精神病の DTNBP1 遺伝子防禦ハプロタイプは統合失調症と同じである.第 15 回日本精神・行動遺伝医学会、2007.11、東京
6. Okahisa Y, Ujike H, Kishimoto M, Kotaka T, Morita Y, Morio A, Inada T, Harano M, Komiyama T, Hori T, Yamada M, Sekine Y, Iwata N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Kuroda S. ASSOCIATION STUDY BETWEEN THE NEUROPEPTIDE Y GENE AND PATIENTS WITH METHAMPHETAMINE DEPENDENCE/PSYCHOSIS. First Annual International Drug Abuse Research Society Meeting and International Society for Neurochemistry Sattelite Meeting, Merida, Mexico, 8.14-17, 2007
7. Kotaka T, Ujike H, Morita Y, Kishimoto M, Okahisa Y, Inada T, Harano M, Komiyama T, Hori T, Yamada M, Sekine Y, Iwata N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Kuroda S. ASSOCIATION STUDY BETWEEN THE CASEIN KINASE 1 EPSILON GENE AND METHAMPHETAMINE DEPENDENCE . First Annual International Drug Abuse Research Society Meeting and International Society for Neurochemistry Sattelite Meeting, Merida, Mexico, 8.14-17, 2007
8. KinoshitaY, Ikeda M, Ujike H, Kitajima T, Yamanouchi Y, Kishi T, Kawashima K, Ohkouchi T, Ozaki N, Inada T, Harano M, Komiyama T, Hori T, Yamada M, Sekine Y, Iyo M, Sora I, Aleksici B, Iwata N. Association study of the calcineurin A gamma subunit gene (PPP3CC) and methamphetamine use disorder in the Japanese population.. First Annual International Drug Abuse Research Society Meeting and International Society for Neurochemistry Sattelite Meeting, Merida, Mexico, 8.14-17, 2007
9. Kishi T, Ikeda M, Kitajima T, Yamanouchi Y, KinoshitaY, Kawashima K, Sekine Y, Iyo M, Harano M, Komiyama T, Yamada M, Sora I, Ujike H, Inada T, Ozaki N, Iwata N. No association between alpha4 and beta2 subunit of neuronal nicotinic acetylcholine receptors genes and Methamphetamine use disorder in the Japanese population. First Annual International Drug Abuse Research Society Meeting and International Society for Neurochemistry Sattelite Meeting, Merida, Mexico, 8.14-17, 2007
10. Kishi T, Ikeda M, Kitajima T, Yamanouchi Y, KinoshitaY, Kawashima K, Sekine Y, Iyo M, Harano M, Komiyama T, Yamada M, Sora I, Ujike H, Inada T, Ozaki N, Iwata N. No association between Glutamate cysteine ligase modifier (GCLM) subunit gene and Methamphetamine use disorder in the Japanese population. First Annual International Drug Abuse Research Society Meeting and International Society for Neurochemistry Sattelite Meeting, Merida, Mexico, 8.14-17, 2007
11. Kishi T, Ikeda M, Kitajima T, Yamanouchi Y, KinoshitaY, Kawashima K, Sekine Y, Iyo M, Harano M, Komiyama T, Yamada M, Sora I, Ujike H, Inada T, Ozaki N, Iwata N. No association between Prostate apoptosis response 4 gene (PAWR) and Methamphetamine use disorder in the Japanese population. First Annual International Drug Abuse Research Society Meeting and International Society for Neurochemistry Sattelite Meeting, Merida, Mexico, 8.14-17, 2007
12. Ezaki N, Nakamura K, Sekine Y, Iyo M, Ozaki

N, Inada T, Iwata N, Harano M, Komiyama T, Yamada M, Sora I, Ujike H, Mori N. ASSOCIATION ANALYSIS OF 5-HTTLPR VARIANTS WITH METH-AMPHETAMINE PSYCHOSIS IN JAPANESE POPULATIONS. First Annual International Drug Abuse Research Society Meeting and International Society for Neurochemistry Sattelite Meeting, Merida, Mexico, 8.14-17, 2007

13. Ujike H. Biennial Meeting of the Asia-Pasific Society for Neurochemistry. Symposium Genetics of addiction. Susceptibility Genes for Methamphetamine Use disorders. Shanghai, China, 6.23-6.26, 2008
14. Ujike H. Symposium;Gentics of substance abuse. Gnetics of methamphetamine psychosis in Japan. XVIth World Congress on Psychiatric Genetics, Oct 11-15, 2008, Osaka
15. 岡久祐子、氏家 寛、小高辰也、高木 学、中田謙二、稲田俊也、内村 直尚、山田光彦、岩田仲生、伊豫雅臣、曽良一郎、尾崎紀夫、黒田重利 .RGS9遺伝子多型と統合失調症および覚せい剤依存症の関連研究. 第２回アジア太平洋生物学的精神医学会・第30回日本生物製剤学的精神医学会、富山、９月10-13日、2008
16. 小高辰也、氏家 寛、岡久祐子、 高木 学、中田謙二、稲田俊也、山田光彦、内村 直尚、岩田仲生、曽良一郎、伊豫雅臣、尾崎紀夫、黒田重利. G72遺伝子と覚せい剤精神病との関連. 第２回アジア太平洋生物学的精神医学会・第30回日本生物製剤学的精神医学会、富山、９月10-13日、2008
17. 臼井 比奈子, 吉村 智子, 吉見 陽, 高橋 長秀, 齋藤 真一, Branko Aleksic, 石原 良子, 氏家 寛, 稲田 俊也, 山田 光彦, 内村 直尚, 岩田 仲生, 曽良 一郎, 伊豫 雅臣, 尾崎 紀夫. GDNF遺伝子とメタンフェタミン使用障害との関連解析. 第２回アジア太平洋生物学的精神医学会・第30回日本生物製剤学的精神医学会、富山、９月10-13日、2008
18. Okahisa Y, Ujike H, Kotaka T, Takaki M, Nakata K,Inada T, Uchimura N, Yamada M, Iwata N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Kuroda S. Association between the cannabinoid receptor 1 gene and patients with methamphetamine dependence. XVIth World Congress on Psychiatric Genetics, Oct 11-15, 2008, Osaka
19. Usui H, Yoshimura T, Yoshimi A, Takahashi N, Saito S, Aleksic B, Ishihara R, Ujike H, Inada T, Yamada M, Uchimura N, Iwata N, Sora I, Iyo M, Ozaki N. Association study between *GDNF* and methamphetamine dependence in the Japanese population. XVIth World Congress on Psychiatric Genetics, Oct 11-15, 2008, Osaka
20. Kotaka T, Ujike H, Okahisa Y, Takaki M, Nakata K, Inada T, Yamada M, Uchimura N, Iwata N, Sora I, Iyo M, Ozaki N, Kuroda S. The association study between the G72 gene and methamphetamine psychosis. XVIth World Congress on Psychiatric Genetics, Oct 11-15, 2008, Osaka.
21. Okochi T, Kishi T, Ikeda M, Kitajima T, Kinoshita Y, Kawashima K, Tsunoka T, Okuma T, Inada T, Yamada M, Uchimura N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Ujike H, Iwata N. Genetic association study between study between NRG1 and Japanese methamphetamine use disorder. XVIth World Congress on Psychiatric Genetics, Oct 11-15, 2008, Osaka
22. 氏家 寛. 統合失調症とその相同モデルである覚せい剤精神病での遺伝子解析の比較研究. 第5回統合失調症研究会, 2009.2, 東京
23. 岡久 祐子、氏家 寛、児玉匡史, 高木 学, 小高 辰也、中田謙二, 稲田 俊也、内村直尚, 山田 光彦、岩田 仲生、伊豫 雅臣 、曽良 一郎、尾崎 紀夫、黒田 重利. カンナビノイドCB1受容体およびCB2受容体遺伝子多型と覚せい剤依存症の関連研究. 第31回日本生物学的精神医学会、4.23-4.2、2009, 京都
24. 大河内智, 奥村武則, 岸 太郎, 池田匡志、北島剛司、木下葉子、川島邦裕、角鹿智子, 稲田 俊也、山田 光彦、内村直尚, 伊豫 雅臣 、曽良 一郎、尾崎 紀夫、氏家寛、岩田仲生. NOS1遺伝子多型とメタンフェタミン

使用障害との関連研究
第31回日本生物学的精神医学会、4.23-4.2、2009，京都

25. 氏家　寛. 教育講演；思春期と薬物依存. 第5回中国四国思春期学会，山口，7.4-5，2009
26. 氏家　寛. シンポジューム；精神作用物質使用障害の今日的状況，精神作用物質使用障害の疾患概念と生物学的脆弱性. 第105回日本精神神経学会総会，神戸，8.21-23，2009
27. Yokobayashi E, Ujike H, Kotaka T, Okahisa Y, Takaki M, Kodama M, Inada T, Uchimura N, Yamada M, Iwata N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Kuroda S. Association Study of the Serine Racemase Gene with Methamphetamine Psychosis. 2nd Annual International Drug Abuse Research Society and International Society for Neurochemistry Meeting, Aug 17-21, 2009, Seoul
28. Okahisa Y, Kodama M, Takaki M, Inada T, Uchimura N, Yamada M, Iwata N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Ujike H, Association Between The Regulator of G-protein Signaling 9 Gene and Patients with Methamphetamine Use Disorder and Schizophrenia 2nd Annual International Drug Abuse Research Society and International Society for Neurochemistry Meeting, Aug 17-21, 2009, Seoul
29. Okahisa Y, Kodama M, Takaki M, Inada T, Uchimura N, Yamada M, Iwata N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Ujike H, Association Study of Two Cannabinoid Receptor genes, CNR1 and CNR2, with Methamphetamine Dependence. 2nd Annual International Drug Abuse Research Society and International Society for Neurochemistry Meeting, Aug 17-21, 2009, Seoul
30. Ujike H, Kishimoto M, Okahisa Y, Kodama M, Takaki M, Inada T, Uchimura N, Yamada M, Iwata N, Iyo M, Sora I, Ozaki N. Association between the 5HT1b receptor gene and methamphetamine dependence. 2nd Annual International Drug Abuse Research Society and International Society for Neurochemistry Meeting, Aug 17-21, 2009, Seoul
31. Tsunoka T, Kishi T, Ikaeda M, Kitajima T, Yamanouchi Y, Kinoshita Y, Kawashima K, Okochi T, Okumura T, Inada T, Ujike H, Yamada M, Uchimura N, Sora I, Iyo M, Ozaki N, Iwata N. No association between GRM3 and Japanese methamphetamine-induced psychosis. 2nd Annual International Drug Abuse Research Society and International Society for Neurochemistry Meeting, Aug 17-21, 2009, Seoul
32. Okumura T, Okochi T, Kishi T, Ikaeda M, Kitajima T, Kinoshita Y, Kawashima K, Tsunoda T, Inada T, Yamada M, Uchimura N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Ujike H, Iwata N. Genetic association analysis of NOS1 with methamphetamine-induced psychosis in a Japanese population. 2nd Annual International Drug Abuse Research Society and International Society for Neurochemistry Meeting, Aug 17-21, 2009, Seoul
33. Okochi T, Kishi T, Ikaeda M, Kitajima T, Kinoshita Y, Kawashima K, Okumura T, Tsunoda T, Inada T, Yamada M, Uchimura N, Iyo M, Sora I, Ozaki N, Ujike H, Iwata N. Association study of NOS3 and methamphetamine-induced psychosis in a Japanese population. 2nd Annual International Drug Abuse Research Society and International Society for Neurochemistry Meeting, Aug 17-21, 2009, Seoul
34. Kobayashi H, Ujike H, Iwata N, Inada T, Yamada M, Sekine Y, Uchimura N, Iyo M, Ozaki N, Itokawa M, Sora I. Association analysis of the tryptophan hydroxylase 2 gene polymorphisms in patients with methamphetamine dependenbece/psychosis. 2nd Annual International Drug Abuse Research Society and International Society for Neurochemistry Meeting, Aug 17-21, 2009, Seoul
35. Kobayashi H, Ujike H, Iwata N, Inada T, Yamada M, Sekine Y, Uchimura N, Iyo M, Ozaki N, Itokawa M, Sora I. Association analysis of the adenosine A1 receptor gene polymorphisms in patients with

methamphetamine dependence/psychosis. 2nd Annual International Drug Abuse Research Society and International Society for Neurochemistry Meeting, Aug 17-21, 2009, Seoul

36. Kishi T, Ikaeda M, Kitajima T, Yamanouchi Y, Kinoshita Y, Kawashima K, Okochi T, Tsunoda T, Okumura T, Inada T, Ujike H, Yamada M, Uchimura N, Sora I, Iyo M, Ozaki N, Iwata N. Association study between prokineticin 2 (PROK2) and Japanese methamphetamine dependenece. 2nd Annual International Drug Abuse Research Society and International Society for Neurochemistry Meeting, Aug 17-21, 2009, Seoul
37. Kishi T, Ikaeda M, Kitajima T, Yamanouchi Y, Kinoshita Y, Kawashima K, Okochi T, Tsunoda T, Okumura T, Inada T, Ujike H, Yamada M, Uchimura N, Sora I, Iyo M, Ozaki N, Iwata N. Association study between orphan nuclear receptor rev-erb alpha gene (NR1D1) and Japanese methamphetamine dependence. 2nd Annual International Drug Abuse Research Society and International Society for Neurochemistry Meeting, Aug 17-21, 2009, Seoul
38. Ujike H, Okahisa Y, Takaki M, kodama M, Inada T, Uchimura N, Yamada M, Iyo M, Sora I, Iwata N, Ozaki N. TYROSINE HYDROXYLASE GENE AND METHAMPHETAMINE USE DISORDERS. XVIIth World Congress on Psychiatric Genetics, Nov 4-8, 2009, San Diego, USA

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

平成19～21年度　3年間　刊行物一覧

名城大学大学院薬学研究科　教授		鍋島俊隆 毛利彰宏(リサーチレジデント)		
発表論文				
発表者等　氏名	発表タイトル	誌名　巻号、掲載ページ	掲載年	
Yan, Y., et al.	Enduring vulnerability to reinstatement of methamphetamine-seeking behavior in glial cell line-derived neurotrophic factor mutant mice.	FASEB J., 21, 1994-2004	2007	No.1
Mizoguchi,H. , et al.	Reduction of methamphetamine-induced sensitization and reward in matrix metalloproteinase-2 and -9 deficient mice.	J. Neurochem., 100, 1579-1588	2007	
Ito, M., , et al	Possible involvement of protease-activated receptor-1 in the regulation of morphine-induced dopamine release and hyperlocomotion by the tissue plasminogen activator-plasmin system.	J. Neurochem.,101, 1392-1399	2007	
Niwa, M., , et al	A novel molecule 'shati' is involved in methamphetamine-induced hyperlocomotion, sensitization, and conditioned place preference.	J. Neurosci., 27, 7604-7615	2007	No.2
Mouri, A., , et al	Involvement of a dysfunctional dopamine-D1/NMDA-NR1 and CaMK II pathway in the impairment of latent learning in a model of schizophrenia induced by phencyclidine.	Mol. Pharmacol., 71, 1598-1609	2007	
Shin, E.-J., , et al	Dextromethorphan attenuates trimethyltin-induced neurotoxicity via σ 1 receptor activation in rats.	Neurochem Int, 50, 791-799	2007	
Mouri, A., et al.	Phencyclidine animal models of schizophrenia : approaches from abnormality of glutamatergic neuro-transmission and neurodevelopment.	Neurochem Int, 51, 173-184	2007	
Wang, D., et al.	Synergistic effect of galantamine with risperidone on impairment of social interaction in phencyclidine-treated mice as a schizophrenic animal model.	Neuropharmacology, 52, 1179-1187	2007	
Wang, D., et al.	The allosteric potentiation of nicotinic acetylcholine receptors by galantamine ameliorates the cognitive dysfunction in beta amyloid25-35 i.c.v.-injected mice involvement of dopaminergic systems.	Neuropsychopharmacology, 32, 1261-1271	2007	
Yan, Y., et al.	Reinforcing effects of morphine are reduced in tissue plasminogen activator (tPA)-knockout mice.	Neuroscience, 146, 50-59	2007	
Mizoguchi, H., et al.	Role of matrix metalloproteinase and tissue inhibitor of MMP in methamohetamine-induced behavioral sensitization and reward implications for dopamine reseptor down-regulation and dopamine release.	J. Neurochem., 102, 1548–1560	2007	
Wang, D., et al..	Role of NMDA receptors in antidepression-like effects of sigma1 receptor agonist SA-4503 in olfactory bulbectomized rats.	J. Pharmacol. Exp. Ther.,322, 1305-1314	2007	
Nagai, T., et al.	Repeated methamphetamine treatment impairs spatial working memory in rats reversal by clozapine but not haloperidol.	Psychopharmacology (Berl.), 194, 21-32	2007	

Ito M., et al.	Activation of post-synaptic dopamine D1 receptors promotes the release of tissue plasminogen activator in the nucleus accumbens via PKA signaling	J. Neurochem. 103, 2589–2596	2007
Wang, D., et al..	Synergistic effect of combined treatment with risperidone and galantamine on phencyclidine-induced impairment of latent visuospatial learning and memory role of nAChR activation-dependent increase of dopamine D1 receptor-mediated neurotransmission.	Neuropharmacology, 53: 379-389	2007
Fukakusa A, et al.	Tissue plasminogen activator is not involved in methamphetamine-induced neurotoxicity.	J Pharmacol Sci. 106, 321-324	2007
Ito M, et al.	Activation of post-synaptic dopamine D(1) receptors promotes the release of tissue plasminogen activator in the nucleus accumbens via PKA signaling.	J Neurochem. 103, 2589–2596	2007
Alkam, T., et al.	Restraining tumor necrosis factor-alpha by thalidomide prevents the Abeta-induced impairment of recognition memory in mice.	Behav. Brain Res, 189,100-106	2008
Tsunekawa, H., et al.	(R)-(-)-1-(benzofuran-2-yl)-2-propylaminopentane hydrochloride [(-)-BPAP] in animal models of mood disorders. (2008).	Behav. Brain Res, 189: 107-116	2008
Tsunekawa, H., et al	Synergistic effects of selegiline and donepezil on cognitive impairment induced by amyloid beta (25-35)	Behav. Brain Res, 194: 224-232	2008
Fukakusa A, et al.	Role of tissue plasminogen activator in the sensitization of methamphetamine-induced dopamine release in the nucleus accumbens.	J Neurochem, 105: 436-444	2008
Ibi D, et al.	Social isolation rearing-induced impairment of the hippocampal neurogenesis is associated with deficits in spatial memory and emotion-related behaviors in juvenile mice.	J Neurochem, 105: 921-32	2008
Niwa M,et al.	A novel molecule shati increases dopamine uptake via the induction of tumor necrosis factor- in pheochromocytoma-12 cells: Shati increases dopamine uptake via TNF-α.	J. Neurochem., 107:1697-708	2008
Alkam T. et al,	The extensive nitration of neurofilament light chain in the hippocampus is associated with the cognitive impairment induced by amyloid beta in mice.	J. Pharmacol. Exp. Ther, 327: 137-147	2008
Mizoguchi, H. et al.	Neuropsychotoxicity of Abused Drugs:Involvement of Matrix Metalloproteinase-2 and -9 and Tissue Inhibitor of Matrix Metalloproteinase-2 in Methamphetamine-Induced Behavioral Sensitization and Reward in Rodents.	J Pharmacol Sci, 106: 9-14	2008
Shin EJ, et al.	Neuropsychotoxicity of abused drugs: potential of dextromethorphan and novel neuroprotective analogs of dextromethorphan with improved safety profiles in terms of abuse and neuroprotective effects.	J Pharmacol Sci, 106: 22-27 .	2008

Fukakusa A, et al.	Tissue plasminogen activator is not involved in methamphetamine-induced neurotoxicity.	J Pharmacol Sci, 106: 321-324	2008
Cen XB, et al.	Identification of Piccolo as a Regulator of Behavioral Plasticity and Dopamine Transporter Internalization : Piccolo as a Regulator of Behavioral Plasticity and DAT Internalization.	Molecular Psychiatory, 349: 451-463	2008
Niwa,M.et al	Genes and molecules that can potentiate or attenuate psychostimulant dependence: relevance of data from animal models to human addiction.	Ann N Y Acad Sci, 1141, 76-95	2008
Nagai T, et al.	Basic and translational research on proteinase-activated receptors: regulation of nicotine reward by the tissue plasminogen activator (tPA) - plasmin system via proteinase-activated receptor 1.	J Pharmacol Sci, 108, 408-414	2008
Arai S, et al.	Involvement of Pallidotegmental Neurons in Methamphetamine- and MK-801-Induced Impairment of Prepulse Inhibition of the Acoustic Startle Reflex in Mice: Reversal by GABA(B) Receptor Agonist Baclofen.	Neuropsychopharmacology, 33, 3164-3175	2008
Kanazawa Y, et al.	Degradation of PEP-19, a calmodulin-binding protein, by calpain is implicated in neuronal cell death induced by intracellular Ca(2+) overload.	Neuroscience, 154, 473-481	2008
Koike H, et al.	Behavioral abnormality and pharmacologic response in social isolation-reared mice. Behav Brain Res 202, 114-121, 2009.	Behav Brain Res 202, 114-121	2009
Lu L, et al.	The long-lasting effects of cross-fostering on the emotional behavior in ICR mice. Behav. Brain Res 198, 172-178,	Behav. Brain Res 198, 172-178,	2009
Yan Y, Nabeshima T.	Mouse model of relapse to the abuse of drugs. Procedural considerations and characterizations.	Behav. Brain Res, 196, 1-10	2009
Lu P, et al.T.	Silibinin prevents amyloid β peptide-induced memory impairment and oxidative stress in mice. Silibinin and memory deficits.	Br J Pharmacol 157, 1270-1277	2009
Shin EJ, et al.	Prodynorphin gene deficiency potentiates nalbuphine-induced behavioral sensitization and withdrawal syndrome in mice.	Drug and Alcohol Dependence 104, 175-184	2009
Miwa M, et al..	Distinct effects of nociceptin analogs on scopolamine-induced memory impairment in mice. Eur J Pharmacol 602, 328-333	Eur J Pharmacol 602, 328-333	2009
Hritcu L, Clicinschi M, Nabeshima T.	Kainic acid lesion-induced spatial memory deficits of rats. Central Europe.	J Biol 4, 179-185	2009
Niwa M, et al..	A novel molecule shati increases dopamine uptake via the induction of tumor necrosis factor- in pheochromocytoma-12 cells Shati increases dopamine uptake via TNF-α.	J Neurochem 107, 1697-1708	2009
Jin CH, et al.	Fustin flavonoid attenuates β -amyloid (1-42)-induced learning impairment. J Neurosci Res 87, 3658-70	J Neurosci Res 87, 3658-3670	2009

No.3

Mizoguchi H, et al.	Matrix metalloprotease-9 inhibition improves amyloid β -mediated cognitive impairment and neurotoxicity in mice.	J Pharmacol Exp Ther 331, 14-22	2009
Lu P, et al.	Implication of inducible nitric oxide synthase (iNOS) and tumor necrosis factor-alpha (TNF-a) in mice.	J Pharmacol Exp Ther 331, 319-326	2009
Shin EJ, Chae JS, Park SJ, et al.	Growth hormone-releaser diet attenuates beta-amyloid(1-42)-induced cognitive impairment via stimulation of the insulin-like growth factor (IGF)-1 receptor in mice.	J Pharmacol Sci 109, 139-143	2009
Shin EJ, et al.	Role of Microsomal Epoxide Hydrolase in Methamphetamine-induced Drug Dependence in Mice.	J. Neurosci. Res. 87, 3679-3686	2009
Tomida S., et al.	Identification of Usp46, encoding a ubiquitin specific peptides, as a quantitative trait gene regulating mouse immobile behavior in the tail suspension test and the forced swimming test.	Nature Genetics, 43, 648-653	2009
Ibi D, et al.	Piccolo knockdown-induced impairments of spatial learning and long-term potentiation in the hippocampal CA1 region.	Neurochem Int 56, 77-83	2009
Villard V, et al.	Antiamnesic and Neuroprotective Effects of the Aminotetrahydrofuran Derivative ANAVEX1-41 Against Amyloid beta(25-35)-Induced Toxicity in Mice.	Neuropsychopharmacol 34, 1552-1566	2009
Ibi D, et al.	Neonatal polyI C treatment in mice results in schizophrenia-like behavioral and neurochemical abnormalities in adulthood.	Neurosci Res 64, 297-305	2009
Nagai T, et al.	Aripiprazole ameliorates phencyclidine-induced impairment of recognition memory through dopamine D1 and serotonin 5-HT1A receptors.	Psychopharmacology (Berl) 202, 315-328	2009
Mizoguchi H, et al.	Therapeutic potential of nicotine for methamphetamine-induced impairment of sensorimotor gating involvement of pallidotegmental neurons.	Psychopharmacology (Berl) 207, 235-243	2009
Ibi D, et al.	Combined effect of neonatal immune activation and mutant DISC1 on phenotypic changes in adulthood.	Behav Brain Res 206, 32-37	2010
Lu P, et al.	Silibinin attenuates cognitive deficits and decreases of dopamine and serotonin induced by repeated methamphetamine treatment.	Behav Brain Res 207, 387-393	2010
Ikeda M, et al.	Identification of Novel Candidate Genes for Treatment Response to Risperidone and Susceptibility for Schizophrenia Integrated Analysis Among Pharmacogenomics, Mouse Expression, and Genetic Case-Control Association Approaches.	Biol Psychiatry, 207, 235-243	2010
Mouri A, et al.	The Role of Cyclophilin D in Learning and Memory.	Hippocampus 20, 293-304	2010

No.4

Niwa M, et al.	Knockdown of DISC1 by in utero gene transfer disturbs postnatal dopaminergic maturation in the frontal cortex and leads to adult behavioral deficits	Neuron 65, 1-10	2010
Noda Y, et al.	Galantamine ameliorates the impairment of recognition memory in mice repeatedly treated with methamphetamine involvement of allosteric potentiation of nicotinic acetylcholine receptors, dopaminergic-extracellular signal-regulated kinase 1/2 systems.	Int J Neuropsycho-pharmacology,	in press
Lu L, et al.	Prenatal exposure to phencyclidine produces abnormal behaviour and NMDA receptor expression in postpubertal mice.	Int J Neuropsycho-pharmacology,	in press
Alkam T, et al.	Oral supplementation with Leu-Ile, a hydrophobic dipeptide, prevents the impairment of memory induced by amyloid beta in mice via restraining the hyperphosphorylation of extracellular signal-regulated kinase.	Behav Brain Res,	in press
古関竹直，他	【統合失調症の病態進行・難治化と動物モデル】難治性統合失調症の動物モデルと治療薬開発	脳と精神の医学 19, 31-40	2008
辻美江，他	【処方計画法】心身・精神疾患 薬物依存症	綜合臨床 57 巻増刊 1458-1461	2008
丹羽美苗，鍋島俊隆	GDNF および TNF-α 誘導剤が薬物依存症治療薬になりうる	分子精神医学 8, 168-171	2008
野田幸裕，毛利彰宏，脇由香里，鍋島俊隆	臨床知見に基づいた統合失調症動物モデルを作製するために-統合失調症モデル作成のため，基礎研究者が臨床医に臨むこと- 日本神経薬理学雑誌 29 巻，2 号，47-53	日本神経薬理学雑誌 29 巻，2 号，47-53	2009
野田幸裕，毛利彰宏，鍋島俊隆	統合失調症動物モデルとその評価法 実践行動薬理学 第1編 行動薬理研究における実験技術 10 ，79-93	実践行動薬理学 第1編 行動薬理研究における実験技術 10 ，79-93	2010
特許など	新田淳美，鍋島俊隆 Akt 活性化剤 2007 年 8 月 7 日 （特願 2007-504648）		
	新田淳美，丹羽美苗，鍋島俊隆 精神障害関連遺伝子及びその利用 2006 年 9 月 8 日国際公開、2007 年 8 月 16 日（特願 2007-505883） 2007 年 9 月 4 日米国移行		
	新田 淳美 鍋島 俊隆 脳内酸化抑制剤およびその使用 WO2008/050754A1 2008.5.2（国際公開）		
	新田 淳美 日比 陽子 鍋島 俊隆 森下 幸治 池田 武史 抗うつ・抗不安剤 PCT/JP2009/051027 2009.1.23（国際出願）		

長崎国際大学薬学部薬理学研究室 教授　山本 経之

Hiranita T., Nawata Y., Sakimura K., Yamamoto T.	Methamphetamine-seeking behavior is due to inhibition of nicotinic cholinergic transmission by activation of cannabinoid CB1 receptors,	Neuropharmacology, 55: 1300-1306	2008
Sakae N., et al	Mice lacking the schizophrenia-associated protein FEZ1 manifest hyperactivity and enhanced responsiveness to psychostimulants.	Hum Mol Genet., 17: 3191-203	2008
Shigematsu N., et al.	Association of Catepsin E deficiency with the increase territorial aggresive response in mice.	J Neurochemistry, 105: 1394-1404	2008

Jinno, S., et al.	Selective apoptosis induction in the hippocampal mossy fiber pathway by exposure to CT105, the C-terminal fragment of Alzheimer's amyloid precursor protein.	Brain Res, 1249, 68-78	2009
Yoshida, R., et al.	Endocannabinoids selectively enhance sweet taste.	Proc Natl Acad Sci U S A, 107, 935-939	2010
Hiranita, T., et al.	A tryptamine-derived catecholaminergic enhancer, (-) – 1 - (benzofuran – 2 - yl) – 2 - propylaminopentane [(-)-BPAP], attenuates reinstatement of methamphetamine-seeking behavior in rats.	Neuroscience, 165, 300-312	2010
Nawata, Y., et al.	A cannabinoid CB1 receptor antagonist ameliorates impairment of recognition memory on withdrawal from MDMA (Ecstasy).	Neuropsychopharmacology, 35, 515-520	2010
山本経之、縄田陽子、當原真奈美	脳内 endocannabinoid の異常性に基づくマウスの知的機能障害	分子精神医学 7、83-84	2007
山本経之	行動薬理額的側面からみた動物モデルの意義・役割・問題点	日薬理誌、130、94-96	2007
山本経之	カンナビノイド受容体ー中枢神経系における役割	日薬理誌、130、135-140	2007
山本経之，縄田陽子	大脳基底核と脳内報酬;ドパミン伝達の観点から	分子精神医学, 8: 314-320	2008
縄田陽子，山本経之	薬物自己投与実験法を用いての薬物依存研究	日本アルコール・薬物医学会雑誌, 43: 158-165	2008
山本 経之	第Ⅰ編 行動薬理学研究における実験技術1. 創薬に向けての動物モデルの役割と問題点 第Ⅱ編 行動薬理学研究の実際 第四章 報酬機構関連 4. 脳内報酬系への内因性／外因性カンナビノイドの作用	実験薬理学 実践行動薬理学、日本薬理学会出版部	in press
山本経之	Ⅰ中枢神経系の構造と機能 H. 大脳基底核 3. 腹側線条体(側坐核)と報酬系 Ⅲ 精神薬理学 12. エンドカンナビノイドと依存 :精神科診療	リュミエール 16 巻『脳科学エッセンシャルー精神疾患の生物学的 理解のために』、中山書店、	in press
山本経之、縄田陽子	第 8 巻「依存」 Ⅵ. 薬物依存の基礎と臨床 4. 大麻依存 a.大麻依存の基礎	脳とこころのプライマリ・ケアシナジー出版、	in press

星薬科大学薬品毒性学教室・教授　鈴木 勉

Narita, M, et al.	Implication of protein kinase C in the orexin-induced elevation of extracellular dopamine levels and rewarding effect.	Eur. J. Neurosci., 25, 1537-1545	2007
Nemoto T, et al.	Synthesis of a novel 6,14-epoxymorphinan derivative and its pharmacology.	Bioorg. Med. Chem. Lett. 18: 6398-6401	2008
Narita M, et al.	Comparative pharmacological profiles of morphine and oxycodone under a neuropathic pain-like state in mice: Evidence for less sensitivity to morphine.	Neuropsycho-pharmacology 33: 1097-1112	2008
Suzuki T, Nakamura A, Suzuki M, Narita M	Comparison of analgesic tolerance to and psychological dependence on oxycodone, morphine and fentanyl in a neuropathic pain-like state in mice.	Oncology 74 suppl 1: 91-112	2008
Kato A, et al	Oxycodone-induced analgesic effects in a bone cancer pain model in mice.	Oncology 74 suppl 1: 55-60	2008

No.5
No.6
No.7
No.8
No.9
No.10

Narita M, et al.	Post-synaptic action of morphine on glutamatergic neuronal transmission related to the descending antinoci- ceptive pathway in the rat thalamus.	J. Neurochem. 104: 469-478	2008	
Narita M, et al.	Role of interleukin-1beta and tumor necrosis factor-alpha-dependent expression of cyclooxygenase-2 mRNA in thermal hyperalgesia induced by chronic inflammation in mice.	Neuroscience 152: 477-486	2008	
Matsumoto K, et al.	MGM-9[(E)-methyl2-(3-ethyl-7a,12a-(epoxyethanoxy)-9-fluoro -1, 2, 3, 4, 6, 7, 12, 12b – octahydro -8 – methoxyindolo [2,3-a]quinolizin-2-yl)-3-methoxyacrylaˆte], a derivative of the indole alkaloid mitragynine:A novel dual - acting μ- and κ-opioid agonist with potent anti- nociceptiveand weak rewarding effects in mice.	Neuropharmacology 55: 154-65	2008	
Nakamura A, et al.	Changes in the rewarding effects induced by tramadol and its active metabolite M1 after sciatic nerve injury in mice.	Psychopharmacology 200: 307-316	2008	
Niikura K, et al.	Implication of spinal protein kinase Cgamma isoform in activation of the mouse brain by intrathecal injection of the protein kinase C activator phorbol 12,13-dibutyrate using functional magnetic resonance imaging analysis.	Neurosci. Lett. 433: 6-10	2008	
Niikura K, et al.	Implication of endogenous beta-endorphin in the inhibition of the morphine-induced rewarding effect by the direct activation of spinal protein kinase C in mice.	Neurosci. Lett. 433: 54-58	2008	
Niikura K, et al.	Direct evidence for the involvement of endogenous beta-endorphin in the suppression of the morphine-induced rewarding effect under a neuropathic pain-like state.	Neurosci. Lett. 435: 257-262	2008	
Terada M, et al	Suppression of enriched environment-induced neurogenesis in a rodent model of neuropathic pain.	Neurosci. Lett. 440: 314-318	2008	
Narita M, et al.	Suppression of dopamine-related side effects of morphine by aripiprazole, a dopamine system stabilizer.	Eur. J. Pharmacol. 600: 105-109	2008	
Matsuzawa-Yanagida K, et al.	Usefulness of antidepressants for improving the neuropathic pain-like state and pain-induced anxiety through actions at different brain sites.	Neuropsychophrmacology 33: 1952-65	2008	
Nemoto T, et al.	Syntheses of 4,6'-epoxymorphinan derivatives and their pharmacologies.	Bioorg. Med. Chem. 16: 4304-12	2008	
Fujii H., et al。	Synthesis of novel twin drug consisting of 8-oxaendoethanotetrahydromorphides with a 1,4-dioxane spacer and its pharmacological activities: mu, kappa, and putative epsilon opioid receptor antagonists.	Bioorg Med Chem Lett. 19: 438-441	2009	
Minami K, et al。	Morphine, oxycodone, and fentanyl exhibit different analgesic profiles in mouse pain models.	J Pharmacol Sci. 111: 60-72	2009	
Taketa Y., et al.	Direct evidence for the ongoing brain activation by enhanced dynorphinergic system in the spinal cord under inflammatory noxious stimuli.	Anesthesiolosy. 112: 418-431	2010	No.11

Hashimoto K., et al	Cell-dependent physiological synaptic action of morphine in the rat habenular nucleus: morphine both inhibits and facilitates excitatory synaptic transmission.	Neurosci Lett. 451: 270-273	2009	No.12
Hashimoto K., et al.	μ-Opioid receptor-independent fashion of the suppression of sodium currents by μ-opioid analgesics in thalamic neurons.	Neurosci Lett. 453: 62-67	2009	No.13
Kumakura K, et al	Hyperactivity in novel environment with increased dopamine and impaired novelty preference in apoptosis signal-regulating kinase 1 (ASK1)-deficient mice.	Neurosci Res. 66: 313-320	2010	
Furuta S., et al.	Subdiaphragmatic vagotomy promotes nociceptive sensitivity of deep tissue in rats.	Neuroscience. 164: 1252-1262	2009	No.14
Kuzumaki N, et al.:	Enhanced IL-1β production in response to the activation of hippocampal glial cells impairs neurogenesis in aged mice.	Addiction Biology	in press	
Ikegami D, et al	Epigenetic modulation at the CCR2 gene correlates with the maintenance of behavioral sensitization to methamphetamine	Addiction Biology	in press	
Kuzumaki N, et al.	Hippocampal epigenetic modification at the brain-derived neurotrophic factor gene is involved in enriched environment-induced neurogenesis.	Hippocampus.	in press	
Kuzumaki N, et al。	Hippocampal epigenetic modification at the doublecortin gene is involved in the impairment of neurogenesis with aging.	Synapse.	in press	
塩川 満、ほか	モルヒネの副作用対策における新規抗精神病薬アリピプラゾールの有用性	日本緩和医療薬学会雑誌 1: 83-94	2008	
成田 年 ほか	オピオイドトランスレーショナルリサーチの最前線: μ受容体の多様性と疼痛下でのオピオイド依存不形成機構	Anesthesia 21 Century 11: 66-75	2009	
新倉慶一 成田 年 鈴木 勉	神経障害性疼痛の治療 オピオイド -神経障害性疼痛に対するオピオイドの有効性のメカニズム-	Clinical Neuroscience 別冊 27: 554-556	2009	
成田 年 ほか	エピジェネティクスの視点からみた薬物依存の新たな分子メカニズム	Medical Bio 7: 18-23	2009	
成田 年	疼痛応答の統合的理解を目的とした疼痛モデルの応用	ファルマシア 45: 1113-1117	2009	
成田 年	第 2 回日本緩和医療薬学会年会-緩和医療の更なる発展を目指して-	ペインクリニック 30: 110-111	2009	
今井哲司	Morphological and functional reorganization of rat medical prefrontal cortex in neuropathic pain	ペインクリニック 30: 682	2009	
成田 年 今井哲司、池上大悟 葛巻直子 鈴木 勉	「痛み」病態の統合的分子理解とこれからの「痛み研究」のベクトル : 慢性疼痛におけるエピジェネティクス制御	ペインクリニック 30: 1211-1218	2009	
今井哲司 成田 年 新倉慶一 葛巻直子 鈴木 勉	Ⅱ. 神経障害性疼痛に関する基礎研究 14) 鎮痛薬としてのケタミンの有用性: 基礎の立場から.	ペインクリニック 30: S7123-S7129	2009	
新倉慶一 ほか	神経障害性疼痛の新しい知見	緩和医療学 11: 384-388	2009	
葛巻直子 成田 年 新倉慶一 鈴木 勉	慢性疼痛と不安／睡眠障害:痛み刺激による脳内感作	日本緩和医療薬学雑誌 2: 33-37	2009	

武井大輔 ほか	嘔気・嘔吐の薬物療法	日本緩和医療薬学雑誌 2: 111-117	2009
成田 年 ほか	メチルフェニデートとメタンフェタミンの細胞毒性の分子機構 -その相違とメチルフェニデートの安全性-	日本神経精神薬理学雑誌 29: 115-120	2009
成田 年	慢性痛の発生機序	A net[6] Anesthesia Network 14: 4-6	2010
今井哲司 成田 年 鈴木 勉	側坐核	分子精神医学 10: 54-58	2010
成田 年（編集委員） 池上大悟 今井哲司 葛巻直子 鈴木 勉 鳥越一宏 新倉加奈 新倉慶一 吉澤一巳（翻訳者）	ストレス百科辞典	丸善 140 周年記念出版	2009
川崎医科大学薬理学研究室・教授		**大熊誠太郎**	
Katsura M, et al.	Up-regulation of L-type high voltage-gated calcium channel subunits by sustained exposure to 1,4- and 1,5-benzodiazepines in cerebrocortical neurons.	J Neurochem. 103、2518-2528	2007
Shibasaki M, et al.	Regional differences of L-type high voltage-gated calcium channel subunit expression in the mouse brain after chronic morphine treatment.	J Pharmacol Sci. 105、177-183	2007
Shibasaki M, et al..	Increase in diazepam binding inhibitor expression by sustained morphine exposure is mediated via μ -opioid receptors in primary cultures of mouse cerebral cortical neurons.	J Neurosci Res. 85, 2971-2980	2007
Shibasaki M, et al.	Direct evidence for the up-regulation of Vps34 regulated by PKCgamma during short-term treatment with morphine.	Synapse. 63:365-368.	2009 No.15
Shibasaki M, et al..	Role of alpha2/delta subunit in the development of morphine-induced rewarding effect and behavioral sensitization.	Neuroscience. 163 :731-734.	2009 No.16
Shibasaki M, et al.	Upregulation of L-Type Cav1 Channels in the Development of Psychological Dependence.	Synapse. 64:440-444	2010 No.17
Kurokawa K, et al.	Methamphetamine-induced up-regulation of alpha2/delta subunit of voltage-gated calcium channels is regulated by dopamine receptors	Synapse. in press	in press No.18
Kurokawa K, et al.	Functional implication of postsynaptic alpha2/delta-1 subunit in behavioral sensitization to and rewarding effect of methamphetamine	Neuroscience. in press	in press
桂 昌司、大熊誠太郎	【アルコール医学・医療の最前線】アルコール依存症、アルコール依存症病態発現の神経薬理学的機序.	医学のあゆみ, 222, 677-684	2007
桂 昌司、大熊誠太郎	【薬理学・毒性学】ベンゾジアゼピン系薬物依存の新知見.	医学のあゆみ,223,187	2007
桂 昌司、芝崎真裕、大熊誠太郎	細胞内カルシウム動態変化からみたアルコール精神および身体依存形成.	日本アルコール・薬物医学会雑誌, 42, 59-66	2007
大熊誠太郎、芝崎真裕、黒川和宏	$GABA_A$ 受容体	日本薬理学雑誌, 131. 388-390	2008
大熊 誠太郎、芝崎真裕、桂 昌司	安全性薬理試験マニュアル 第五章第四節 抗喘息薬	安東賢太郎、橋本敬太郎、藤森観之助 編、株式会社エル・アイ・シー	2009
大熊 誠太郎、黒川和宏、芝崎 真裕	ストレス百科事典［ベンゾジアゼピン］	武田弘志・辻 稔、丸善株式会社 310-316	2009
大熊 誠太郎、芝崎真裕、黒川 和宏	ストレス百科事典［興奮性アミノ酸］	武田弘志・辻 稔、丸善株式会社 970-975	2009
大熊 誠太郎、芝崎真裕、黒川 和宏	脳とこころのプライマリ・ケア 第8巻 依存 VI. 薬物依存の基礎と臨床 2.ベンゾジアゼピン依存 a.ベンゾジアゼピン依存の基礎	Synergy	in press No.19
大熊 誠太郎、黒川和宏、芝崎 真裕	アルコール・薬物関連障害の生物学	医学のあゆみ	in press
富山大学大学院医学薬学研究部 教授（前 名古屋大学大学院医学系研究科・医学部附属病院 准教授）		**新田淳美**	
Yan, Y., et al.	Transient drug-primed but persistent cue-induced reinstatement of extinguished methamphetamine-seeking behavior in mice.	Behav. Brain Res. 177,261-268	2007
Niwa, M., Nitta, A., et al.	Involvement of glial cell-line derived neurotrophic factor inhibitory effects of a hydorophobic dipeptide Leu- I le on morphine-induced sensitization and rewarding effects.	Behav. Brain Res. 179, 167-171	2007
Alkam, T., et al	A natural scavenger of peroxynitrites, rosmarinic acid, protects against impairment of memory induced by Aβ 25-35.	Behav. Brain Res. 180, 139-145	2007
Murai, R., et al.	Hypofunctional glutamatergic neurotransmission in the prefrontal cortex is involved in the emotional deficit induced by repeated treatment with phencyclidine in mice: implications for abnormalities of glutamate release and NMDA-CaMKII signaling.	Behav. Brain Res. 180, 152-160	2007
Niwa, M., et al.	An inducer for glial cell line-derived neurotrophic factor and tumor necrosis factor-α protects against methamphetamine-induced rewarding effects and sensitization.	Biol. Psychiatry 61, 890-901	2007 No.20
Niwa, M., N et al.	Tumor necrosis factor-α and its inducer inhibit morphine-induced rewarding effects and sensitization.	Biol. Psychiatry 62, 658-668	2007 No.21
Yan, Y.,et al.	Enduring vulnerability to reinstatement of methamphetamine-seeking behavior in glial cell line-derived neurotrophic factor mutant mice.	FASEB J. 21, 1994-2004	2007
Mizoguchi, H., et al.	Reduction of methamphetamine-induced sensitization and reward in matrix metalloproteinase-2 and -9 deficient mice.	J. Neurochem. 100, 1579-1588	2007
Mizoguchi, H., et al.	Role of matrix metalloproteinase and tissue inhibitor of MMP in methamohetamine-induced behavioral sensitization and Reward: implications for dopamine reseptor down-regulation and dopamine release.	J. Neurochem. 102, 1548-1560	2007
Niwa, M., et al.	A novel molecule 'shati' is involved in methamphetamine-induced hyperlocomotion, sensitization, and conditioned place preference.	J. Neurosci. 27, 7604-7615	2007 No.2

Amioka, K., et al.	Carvedilol increases ciclosporin bioavailability by inhibiting P-glycoprotein-mediated transport.	J. Pharm. Pharmacol. 59, 1383-1387	2007
Wang, D., et al.	Role of NMDA receptors in antidepression-like effects of sigma1 receptor agonist SA-4503 in olfactory bulbectomized rats.	J. Pharmacol. Exp. Ther 322, 1305-1314.	2007
Niwa, M., Nitta, A., Yamada, K. and Nabeshima, T.	The roles of glial cell line-derived neurotrophic factor, Tumor Necrosis Factor-α, and an inducer of these factors in drug dependence.	J. Pharmacol. Sci. 104, 116-121	2007
Mouri, A., et al.	Involvement of a dysfunctional dopamine-D1/NMDA-NR1 and CaMK II pathway in the impairment of latent learning in a model of schizophrenia induced by phencyclidine.	Mol. Pharmacol. 71, 1598-1609	2007
Wang, D., et al.	Synergistic effect of combined treatment with risperidone and galantamine on phencyclidine-induced impairment of latent visuospatial learning and memory: role of nAChR activation-dependent increase of dopamine D1 receptor-mediated neurotransmission.	Neuropharmacology 53, 379-389	2007
Wang, D., et al.	The allosteric potentiation of nicotinic acetylcholine receptors by galantamine ameliorates the cognitive dysfunction in beta amyloid25-35 i.c.v.-injected mice: involvement of dopaminergic systems.	Neuropsychopharmacology 32, 1261-1271	2007
Yan, Y., et al	Reinforcing effects of morphine are reduced in tissue plasminogen activator (tPA)-knockout mice.	Neuroscience 146, 50-59	2007
Alkam T, et al.	Restraining tumor necrosis factor-alpha by thalidomide prevents the Abeta-induced impairment of recognition memory in mice.	Behav Brain Res. 189: 100-106.	2008
Niwa M, et al.	A novel molecule 'shati' increases dopamine uptake via the induction of tumor necrosis factor-α in pheochromocytoma-12 cells.	J Neurochem. 107: 1697-1708.	2008
Kawanokuchi J, et al.	Production, functions of IL-17 in microglia.	J Neuroimmunol. 194: 54-61.	2008
Alkam T, et al.	The extensive nitration of neurofilament light chain in the hippocampus is associated with the cognitive impairment induced by amyloid β in mice.	J Pharmacol Exp Ther. 327: 137-147.	2008
Cen X, et al.	Identification of Piccolo as a regulator of behavioral plasticity and dopamine transporter internalization.	Mol Psychiatry. 13: 451-463.	2008
Ibi D, et al.	Combined effect of neonatal immune activation and mutant DISC1 on phenotypic changes in adulthood.	Behav Brain Res., 206, 32-37	2010
Kurata K, et al.	Tissue-type plasminogen activator deficiency attenuates peritoneal fibrosis in mice.	Am J Physiol Renal Physiol	2009
Koike, H., et al.	Behavioral abnormality and pharmacologic response in social isolation-reared mice.	Behav. Brain Res., 202, 114-121	2009
Ibi, D., et al.	Neonatal polyI:C treatment in mice results in schizophrenia-like behavioral and neurochemical abnormalities in adulthood.	Neurosci. Res., 64, 297-305	2009

No.22

No.3

Villard, V., et al.	Anti-amnesic and neuroprotective effects of the aminotetrahydrofuran derivative ANAVEX1-41 against amyloid β_{25-35}-induced toxicity in mice	Neuropsychopharmacol. 34, 1552-1566	2009
Alkam T, et al.	Oral supplementation with Leu-Ile, a hydrophobic dipeptide, prevents the impairment of memory induced by amyloid beta in mice via restraining the hyperphosphorylation of extracellular signal-regulated kinase.	Behav Brain Res.	in press
Ohki M, et al.	Tissue type plasminogen activator regulates myeloid-cell dependent neoangiogenesis during tissue regeneration.	Blood	in press
日比陽子,新田淳美,鍋島俊隆,山田清文	脳由来神経栄養因子およびグリア細胞由来神経栄養因子と神経精神疾患との関係.	日本神経精神薬理学雑誌 29: 85-89	2008
新田淳美.	精神・神経変性疾患治療薬と精神疾患関連遺伝子の発見: unite 2008(和文シーズ集)	名古屋大学編, 名古屋, 27-28.	2008
Nitta A.	The state of drug dependence: In "Technology at a Glance 2007"	Ed. by Nagoya University, Nagoya, Japan	2008
特許など	新田 淳美 鍋島 俊隆 脳内酸化抑制剤およびその使用 WO2008/050754A1 2008 5 2 (国際公開)		
	中谷 正義 篠原 結子 平林 美紀 鈴森 千智 西村 茂 新田 淳美 日比 陽子 眼科用薬剤 特願 2008-206491 2008 8 11		
	新田 淳美 日比 陽子 鍋島 俊隆 森下 幸治 池田 武史 抗うつ・抗不安剤 PCT/JP2009/051027 2009 1 23 (国際出願)		
	新田淳美, 日比陽子, 池田武史, 酒井康 意欲向上剤 特願 2009-118772 2009 5 15		

東北大学大学院医学系研究科・教授		曽良一郎	
Morita, Y., Ujike, H., et al	The glycine transporter 1 gene (GLYT1) is associated with methamphetamine-use disorder.	Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet. 5, 147(1), 54-58	2007
Fukushima, S., et al.	Methamphetamine-induced locomotor activity and sensitization in dopamine transporter and vesicular monoamine transporter 2 double mutant mice.	Psychopharmacology. 193,55-62	2007
Ikeda, M., et al.	Possible association of beta-arrestin 2 gene with methamphetamine use disorder, but not schizophrenia.	Genes Brain Behav. 6, 107-112	2007
Yamamoto, H., et al.	Genetic deletion of vesicular monoamine transporter-2 (VMAT2) reduces dopamine transporter activity in mesencephalic neurons in primary culture.	Neurochem. Int. 51,237-244	2007
Numachi, Y.,et al.	Methamphetamine-induced hyperthermia and lethal toxicity: role of the dopamine and serotonin transporters.	Eur J Pharmacol.572, 120-128	2007
Uhl GR,et al.	Genome-wide association for methamphetamine dependence: convergent results from two samples.	Arch Gen Psychiatry. 65(3):345-355.	2008
Otani K, et al.	Reduced CYP2D6 activity is a negative risk factor for methamphetamine dependence.	Neurosci Lett. 434(1):88-92	2008
Ide S, et al.	Abolished thermal and mechanical antinociception but retained visceralchemical antinociception induced by butorphanol in m-opioidreceptor knockout mice.	Neuropharmacology. 54 , 1182–1188	2008

No.23

No.24

Ito M, Numachi Y, Ohara A, Sora I.	Hyperthermic and lethal effects of methamphetamine: Roles of dopamine D1 and D2 receptors.	Neuroscience Letters.27;438(3), 327-329	2008	No.25
Iwakura Y, Nawa H, Sora I, Chao MV.	Dopamine D1 Receptor-induced Signaling through TrkB Receptors in Striatal Neurons.	J Biol Chem. 6;283(23):15799-15806	2008	
Asada M, et al.	Reduced tumor growth in a mouse model of schizophrenia, lacking the dopamine transporter.	Int J Cancer. 1;123(3):511-518	2008	
Kishimoto M, et al.	The Frizzled 3 Gene Is Associated with Methamphetamine Psychosis in Japanese Population.	Behavioral and Brain Functions.15;4(1):37	2008	
Perona MT, et al	Animal models of depression in dopamine, serotonin, and norepinephrine transporter knockout mice: prominent effects of dopamine transporter deletions.	Behav Pharmacol. 19(5-6):566-574	2008	
Hashimoto T, et al	Association study between polymorphisms in glutathione-related genes and methamphetamine use disorder in a Japanese population.	Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet. 147B(7):1040-1046	2008	
Kishi T, et al	Alpha4 and beta2 subunits of neuronal nicotinic acetylcholine receptor genes are not associated with methamphetamine-use disorder in the Japanese population.	Ann. N.Y. Acad. Sci.1139:70-82	2008	
Kishi T, et al	Glutamate cysteine ligase modifier (GCLM) subunit gene is not associated with methamphetamine-use disorder or schizophrenia in the Japanese population.	Ann. N.Y. Acad. Sci.1139:63-69	2008	
曽良一郎, 福島攝, 山本秀子, 池田和隆	ADHD 動物モデルとしてのドーパミントランスポーター(DAT) 欠損マウス.	脳と精神の医学 18, 279-283	2007	
曽良一郎	薬物依存の分子病態.	実験医学 25, 179-184	2007	
曽良一郎, 猪狩もえ, 山本秀子, 池田和隆	依存性薬物の分子標的としてのモノアミントランスポーター.	日本薬理学雑誌 130, 450- 454	2007	
曽良一郎.	特集 II AD/HD の新しい薬物療法. メチルフェニデートの依存リスク.	精神科 12(4):310-315	2008	
曽良一郎, 笠原好之.	トランスポーターの遺伝子改変動物と精神神経疾患.中枢神経系のトランスポーターをめぐって.	Clinical Neuroscience 月刊臨床神経科学. 中外医学社 . 10 (26) 1081-1083	2008	
曽良一郎, 福井麻美.	注意欠陥多動性障害(ADHD)とモノアミントランスポーター. 中枢神経系のトランスポーターをめぐって.	Clinical Neuroscience 月刊臨床神経科学. 中外医学社 . 10 (26) 1146-1147	2008	
曽良一郎, 猪狩もえ, 池田和隆.	薬物依存とメチルフェニデート. シンポジウム「AD/HD の薬物療法-メチルフェニデートを巡って-」	精神神経学雑誌 110(10):941-945	2008	
Kasai S, Hayashida M, Sora I, Ikeda K.	Candidate gene polymorphisms predicting individual sensitivity to opioids.	Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol.377(4-6): 269-281	2008	
Sora, I., et al.	Monoamine transporter as a target molecule for psychostimulants.	International Review Of Neurobiology. 85: 29-33	2009	No.26
曽良一郎.	薬物依存 生物学的側面.精神医学対話	松下正明, 加藤敏, 神庭重信編, 弘文堂, 東京, 831-840	2008	

Sora I, Li B, Igari M, Hall FS, Ikeda K.	Transgenic mice in the study of drug addiction and the effects of psychostimulant drugs. in Ann. N.Y. Acad. Sci. Addiction Reviews 2009	*edited by George R. Uhl*,Wiley-Blackwell.Boston, MA (USA)	2009	No.27
Hall FS, Sora I, Perona MTG, Uhl GR.	The role of the serotonin transporter in drug reward: Gene knockout studies.Experimental models in serotonin transporter research.	Kaluev A (ed.) Nova Science Publishers. New York	in press	
千葉大学大学院医学研究科・教授		**伊豫 雅臣**		
Matsuzawa D, et al.	Identification of functional polymorphisms in the promoter region of the human PICK1 gene and their association with methamphetamine psychosis.	Am J Psychiatry 164, 1105-1114	2007	No.28
Hashimoto K, et al.	Protective effects of minocycline on the reduction of dopamine transporters in the striatum after administration of methamphetamine: A PET study in conscious monkeys.	Biol Psychiatry 61, 577-581	2007	No.29
Ishikawa M, et al.	High occupancy of sigma-1 receptors in the human brain after single oral administration of fluvoxamine: A PET study using [11C]SA4503.	Biol Psychiatry. 62, 878-883	2007	
Hashimoto K, Sawa A, Iyo M.	Increased levels of glutamate in brains from patients with mood disorders.	Biol Psychiatry. 25, 1310-1316	2007	
Tsuchiya K, et al..	Decreased serum levels of PECAM-1 in subjects with high-functioning autism: a negative correlation with head circumference at birth.	Biol Psychiatry. 62, 1056-1058	2007	
Fukushima T, et al.	Determination of kynurenic acid in human serum and its correlation with the concentration of certain amino acids.	Clin Chim Acta 377, 174-178	2007	
Tomiya M, et al.	Alterations in serum amino acid concentrations in male and female schizophrenic patients.	Clin Chim Acta 380, 186-190	2007	
Hashimoto K, Fujita Y, Ishima T, Chaki S, Iyo M.	Phencyclidine-induced cognitive deficits in mice are improved by subsequent subchronic administration of glycine transporter-1 inhibitor NFPS.	Eur Neuropsychopharmacol. 18(6), 414-421	2007	
Ikeda M,et al.	Possible association of beta-arrestin 2 gene with methamphetamine use disorder, but not schizophrenia.	Genes Brain Behav., 6, 107-112	2007	
Nakajima M, et al.	Association and synergistic interaction between promoter variants of the DRD4 gene in Japanese schizophrenics	J Hum Genet 52, 86-91	2007	
Shimizu E, et al.	Posterior cingulate gyrus metabolic changes in chronic schizophrenia with generalized cognitive deficits.	J Psychiatr Res. 41, 49-56	2007	
Hashimoto K, Fujita Y, Iyo M.	Phencyclidine-induced cognitive deficits in mice are improved by subsequent subchronic administration of fluvoxamine: role of sigma-1 receptors.	Neuropsychopharmacology 32, 514-521	2007	
Zhang L, Shirayama Y, Iyo M, Hashimoto K.	Minocycline attenuates hyperlocomotion and prepulse inhibition deficits in mice after administration of the NMDA receptor antagonist dizocilpine.	Neuropsychopharmacology. 32, 2001-2010	2007	No.30

Shimizu E, et al.	Maintenance electroconvulsive therapy (ECT) for treatment-resistant disorganized schizophrenia.	Prog Neuro-psychopharmacol Biol Psychiatry 31, 571-573	2007	
Shimizu E, et al.	Combined intoxication with methylone and 5-MeO-MIPT.	Prog Neuropsycho-pharmacol Biol Psychiatry. 31, 288-291	2007	
Okamura N, Hashimoto K, Iyo M, Shimizu E,	Dempfle A, Friedel S, Reinscheid RK. Gender-specific association of a functional coding polymorphism in the neuropeptide S receptor gene with panic disorder but not with schizophrenia or attention-deficit/hyperactivity disorder.	Prog Neuropsychopharmaco l Biol Psychiatry. 31, 1444-1448	2007	
Morita Y, et al.	The glycine transporter 1 gene (GLYT1) is associated with methamphetamine-use disorder.	Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet. 147B, 54-58	2008	
Hashimoto, T. et al	Association study between polymorphisms in glutathione-related genes and methamphetamine use disorder in a Japanese population.	Am. J. Med. Genet. Part B., 147B: 1040-1046	2008	
Morita, Y., et al.	The glycine transporter 1 gene (GLYT1) is associated with methamphetamine-use disorder.	Am. J. Med. Genet. Part B., 147B: 54-58.	2008	
Uhl, G.R.et al.	Genome-wide association for methamphetamine dependence: convergent results from 2 samples.	Arch. Gen. Psychiatry, 65: 345-355,	2008	
Kishimoto, M., et al	The Frizzled 3 gene is associated with methamphetamine psychosis in the Japanese population.	Behav. Brain Funct., 4: 37,	2008	
Kishimoto M, et al.	The Dysbindin Gene (DTNBP1) Is Associated with Methamphetamine Psychosis.	Biol Psychiatry. 63, 191-197	2008	
Hashimoto, K.,et al	Phencyclidine-induced cognitive deficits in mice are improved by subsequent subchronic administration of the novel selective ・7 nicotinic receptor agonist SSR180711.	Biol. Psychiatry, 63: 92-97	2008	
Otani, K., et al..	Reduced CYP2D6 activity is a negative risk factor for methamphetamine dependence.	Neurosci. Lett., 434: 88-92	2008	
Fujita Y, et al.	Phencyclidine-induced cognitive deficits in mice are improved by subsequent subchronic administration of the antibiotic drug minocycline.	Prog Neuropsychopharmaco l Biol Psychiatry,32: 336-339	2008	No.31
Hashimoto T, et al.	Deficits in auditory P50 inhibition in obsessive-compulsive disorder.	Prog Neuropsychopharmaco l Biol Psychiatry. 32(1):2882-296	2008	
Iyo M, et al.	Fluvoxamine as a sigma-1 receptor agonist improved cognitive impairments in a patient with schizophrenia	Prog Neuropsychopharmaco l Biol Psychiatry. 32(4):1072-1073	2008	
Hagiwara H, Iyo M, Hashimoto K.	Mithramycin protects dopaminergic neurotoxicity in mouse brain after administration of methamphetamine.	Brain Res. 1301: 189-196	2009	No.32
Hashimoto T, et al.	Association study between polymorphisms in glutathione-related genes and methamphetamine use disorder in a Japanese population.	Am. J. Med. Genet.	in press	

Kanahara, N., et al.	Association study between the PIK4CA gene and methamphetamine use disorder in a Japanese population.	Am. J. Med. Genet. Part B.	in press	
Hagiwara H, et al.	Phencyclidine-induced cognitive deficits in mice are improved by subsequent subchronic administration of the antipsychotic drug perospirone: role of serotonin 5-HT1A receptor.	Eur. Neuropsychopharmaco logy.	in press	
Tanibuchi Y, et al.	A case of methamphetamine use disorder treated with the antibiotic drug minocycline.	Gen Hosp Psychiatry	in press	
Nakajima, M., et al.	Genetic examination of the PLXNA2 gene in Japanese and Chinese schizophrenics.	Schizophrenia Res.	in press	
Ishima, T.,et al	Improvement of phencyclidine-induced cognitive deficits in mice by subsequent subchronic administration of fluvoxamine, but not sertraline.	The Open Clin. Chem. J.	in press	
橋本謙二、伊豫雅臣	薬物依存症の脳画像研究と新しい治療法	医学のあゆみ 231: 1079-1082.	2009	
伊豫雅臣、橋本謙二、関根吉統	覚せい剤関連精神疾患.	「病気と薬 パーフェクトBOOK-2009」,南山堂、東京 pp.897-898.	2009	
関根吉統、橋本謙二、伊豫雅臣	依存の脳画像解析	Medical Bio 7: 36-41.	2009	
伊豫雅臣、橋本謙二	第 11 章 物質使用障害. II. 薬物依存の病態と治療.	「臨床精神薬理ハンドブック」第2版(監修:樋口輝彦、小山 司)、医学書院、東京、pp. 373-384.	2009	
東京医科歯科大学大学院 教授		**西川 徹**		
Kaneko Y, et al	Selective serotonin reuptake inhibitors, fluoxetine and paroxetine, attenuate the expression of the established behavioral sensitization induced by methamphetamine.	Neuropsychopharmaco l. 32, 658-664	2007	No.33
Takeuchi T, et al.	Perospirone in the treatment of patients with delirium.	Psychiatry Clin Neurosci. 61, 67-70	2007	
Ito T, et al.	Effects of schizophrenomimetics on the expression of CCN1 (CYR 61) gene encoding a matricellular protein in the infant and adult neocortex of the mouse and rat.	Int J Neuropsycho-pharmacol. 717-725,	2007	No.34
Fujihira T, et al	Selective increase in th extracellular e D-serine contents by D-cycloserine in the rat medial frontal cortex.	Neurochem. Int. 51,233-236	2007	No.35
Numachi Y, Yet al.	Altered EphA5 mRNA expression in rat brain with a single methamphetamine treatment.	Neurosci. Lett. 424, 116-121	2007	
Kurumaji A, et al,	Effects of FG7142 and immobilization stress on the gene expression in the neocortex of mice.	Neurosci Res. 178:262-273.	2008	
Sato J, et al.	An association analysis of synapse-associated protein 97 (SAP97) gene in schizophrenia.	J Neural Transm. 115:1355-1365	2008	
Yamamoto N, et al.	Sliding doors (but not with beans or tofu).	Lancet 372(9651): 1782	2008	
Hiraoka S, et al.	The development- and phencyclidine-regulated induction of synapse-associated protein-97 gene in the rat neocortex.	Eur Neuropsycho-pharmacol, 20: 176-186	2010	No.36

Nagase Y, et al.	Coping strategies and their correlates with depression in the Japanese general population.	Psychiatry Research	in press
Takebayashi H, et al.	Developmentally-regulated and thalamus-selective induction of leiomodin 2 gene by a schizophrenomimetic, phencyclidine, in the rat.	Int J Neuropsycho-pharma-col	in press
Hattori E, et al.	Preliminary genome-wide association study of bipolar disorder in the Japanese population.	Am J Med Genet Part B: Neuropsychiatric Genetics	in press
熱田英範, 他	Imipramine によって音楽性幻聴が生じた反復性うつ病の 1 症例.	精神科. 10 518-523	2007
正木秀和, 西川 徹.	統合失調症の治療薬開発研究 特集「新しい時代の統合失調症―研究から治療へ―」.	臨床精神医学. 36-1, 43-51	2007
柏 淳, 他	統合失調症の薬理学再発防止への展望 ―セロトニン作動性薬物による逆耐性消失から―.	脳と精神の医学. 18(3), 197-203	2007
Nishikawa T.	A systematic approach to the brain d-serine system.	Fujii N, Homma H, Bruecker H, Fisher GH, Konno R (eds.)A New Frontier in Amino Acid and Protein Research.Nova Science Publishers, New York	2007.
西川 徹.	2ストレスに対する生体の応答, 2.7 発達,ストレスの科学と健康. p88-93,	二木鋭雄編著. 共立出版株式会社, 東京,	印刷中
山本直樹, et al.	グルタミン酸―D-セリン系に作用する統合失調症の新規治療薬開発に関する研究―.	精神薬療研究年報, 39, 22-27	2007
西川 徹	脳の内在性 D-セリンの代謝・機能と精神神経疾患における意義「D-アミノ酸制御システムのニューロバイオロジー」	生化学. 80: 267-276	2008
西川 徹	精神科薬物療法における将来展望―基礎的観点から― 諏訪・佐野メモリアルシンポジウム―抗精神病薬 50 年を振り返る	臨床精神薬理. 11:547-558	2008
西川 徹	統合失調症の分子薬理学的解析.「連載:統合失調症の脳科学最前線―第4回―」	Schizophrenia Frontier 9: 65-69	2008
西川 徹	動物モデルを用いた統合失調症の病態進行・難治化に関与する分子の検索.	脳と精神の医学. 19: 21-29	2008
竹内 崇, 西川 徹	新規抗精神病薬 quetiapine の薬理作用メカニズムについて―D2 以外の受容体に対する作用を中心に―.	臨床精神薬理 11: 921-928	2008
西川 徹	統合失調症の病態と治療―脳科学の進歩により統合失調症はどこまで解明されたか―	郡山精神医療 23: 27-70	2008
竹内 崇, 西川 徹	69 抑うつ(うつ病). 病気・病態・重傷度からみた疾患別看護過程	井上智子, 佐藤千史 編集, 医学書院, pp.1288-1300, 東京	2008
貫名信行, 西川 徹	脳神経疾病研究の成果と課題. 実験医学増刊『脳神経疾患の分子病態と治療への展開』(貫名信行,西川 徹 編集).	羊土社, 東京, 25,1914-1922,	2009
山本直樹, 黒田安計 西川 徹.	ドーパミン・興奮性アミノ酸仮説 ― 3.原因と病態モデル ―I. 統合失調症の概念 - 統合失調症の治療-臨床と基礎―.	朝倉書店, 東京, p38-54,	2009
西川 徹.	統合失調症とグルタミン酸伝達系. 2009.	精神神経学雑誌. 111: 859-867	2009
西川 徹.	Critical period. 特集 1「統合失調症は神経発達障害か、神経変性疾患か？」.	脳 21 12: 185-190	2009
西川 徹.	D-セリンの脳機能の関与. 特集「D-アミノ酸の科学」	BIOINDUSTRY. 27: 13-20	2010

No.37

東京都精神医学総合研究所 ・副参事研究員		池田 和隆	
Ogai Y, et al.	Development and validation of the stimulant relapse risk scale for drug abusers in Japan.	Drug Alcohol Depend 88, 174-181	2007
Imai K, Ogai Y, Nishizawa D, Kasai S, Ikeda K, Koga H.	A novel SNP detection technique utilizing a multiple primer extension (MPEX) on a phospholipid polymer-coated surface.	Mol Biosyst 3, 547-553	2007
Yamamoto H, et al.	Genetic deletion of vesicular monoamine transporter-2 (VMAT2) reduces dopamine transporter activity in mesencephalic neurons in primary culture.	Neurochem Int 51, 237-244	2007
Waga C, Ikeda K, Iwahashi K	The relationship between alcoholism and DBI gene polymorphism in Japanese -genotyping of the +529A/T in DBI gene polymorphism based on PCR-.	Nihon Arukoru Yakubutsu Igakkai Zasshi 42, 629- 634	2007
Fukushima S, et al.	Methamphetamine-induced locomotor activity and sensitization in dopamine transporter and vesicular monoamine transporter 2 double mutant mice.	Psychopharmacology 193, 55-62	2007
Kobayashi T, et al.	Inhibition by cocaine of G protein-activated inwardly rectifying K+ channels expressed in Xenopus oocytes.	Toxicol In Vitro, 21-655-664	2007
Asada, M., et al.	Reduced tumor growth in a mouse model of schizophrenia, lacking the dopamine transporter.	Int J Cancer, 123:511-518	2008
Ide S, et al.	Abolished thermal and mechanical antinociception but retained visceral chemical antinociception induced by butorphanol in mu-opioid receptor knockout mice.	Neuropharmacology 54:1182-1188.	2008
Shigeta Y, et al.	Association of morphine-induced antinociception with variations in the 5' flanking and 3' untranslated regions of the mu opioid receptor gene in 10 inbred mouse strains.	Pharmacogenet Genomics 18(11):927-936.	2008
Hayashida M, et al	Analgesic requirements after major abdominal surgery are associated with OPRM1 gene polymorphism genotype and haplotype.	Pharmacogenomics 9(11):1605-1616.	2008
Ogai Y, et al.	Application of the relapse risk scale to alcohol-dependent individuals in Japan: comparison with stimulant abusers.	Drug Alcohol Depend 101:20-26.	2009
Haraguchi, A., et al	Verification of the addiction severity index Japanese version (ASI-J) as a treatment-customization, prediction, and comparison tool for alcohol-dependent individuals.	Int J Environ Res Public Health, 6:2205-2225	2009
Watanabe, T.,et al	Assessment of Japanese stimulant control law offenders using the Addiction Severity Index-Japanese version: comparison with patients in treatment settings	Int J Environ Res Public Health, 6:3056-3069	2009
Kobayashi T, et al.	Inhibitory effects of the antiepileptic drug ethosuximide on G protein-activated inwardly rectifying K+ channels.	Neuropharmacology 56:499-506.	2009
Yasumoto, S., et al	Inhibitory effect of selective serotonin reuptake inhibitors on the vesicular monoamine transporter 2.	Neurosci Lett, 454:229-232	2009

No.38

No.39

No.40

No.41